

CNA Report Japan

Newsletter focused on
Collaborative conferencing

Conferencing News & Analysis-- Independent & Unbiased Perspective Since December, 1999

電話会議・テレビ会議・Web 会議専門ニュースレター Vol 5. No. 17 2003 年 10 月 15 日号 毎月 15 日・月末発行

創刊 1999 年 12 月 8 日 発行/編集: 橋本啓介 k@cna.jp Copyright 2003 Kay Office All rights reserved.

ニュースダイジェスト

■ ポリコム社、新ビデオ会議システム VSX7000 をリリース、H.264 サポート、日本法人本社に実体験に近いデモ会議室も完備



Polycom VSX 7000

米ポリコム日本法人は、10 月 7 日同社の新しいビデオ会議システム「Polycom VSX 7000」を発表した。日本では、2003 年 10 月中に出荷を開始する。「Polycom VSX 7000」

は、ポリコム社の Viewstation と旧ピクチャーテル製品である iPower のそれぞれの利点を融合させた製品で、グループ会議向け仕様としてはエントリーレベルに位置づけされているが、Viewstation と比較した場合は、Viewstation SP のひとつ上位置づけられる。基本のユーザーインターフェイスは、従前の Viewstation とはデザインが変わったがより洗練されている。購入標準セットは、VSX7000、サブウーファー、マイク1本、リモコンとなる。

→IPビデオ会議を視野に入れた製品で、標準はIPのインターフェイスのみ実装(～2Mbps)。ISDN(～512kbps)については別途オプションを購入する必要がある。内蔵MCUについても実装可能であるが、オプションになる。内蔵MCUなどはサブウーファーの背面のスロットへ差し込む。

→MCUを内蔵で実装した場合、プロトコル混在(IP、ISDN、V.35)環境でのテレビ会議が可能。MCUを内蔵したVSX7000を含む4台での多地点会議が行える。受信時にはパスワード保護が可能。

→帯域幅を有効活用し、より少ない帯域で高画質な映像転送が可能な圧縮符号化方式H.264をサポート。

→企業のセキュリティニーズに対応し暗号化機能AESを内蔵可能とした。

→Polycom Siren14 Plusを実装することにより、CDなみの高音質を実現し、これまで上位機種で利用されていたPolycom Motion Video(60fps、フルスクリーン)を実装することにより映像においても高画質を実現した。

→IP回線上で発生するパケットロス時の映像・音声補正機能が搭載されている。音声の補正機能が付いたのは、VSX7000が初めて。

→ひとつのモニターで、自分側と相手側の映像を一つのモニター画面に表示することができるデュアル・モニター・エミュレーション機能を搭載。また、エミュレーションではなくモニター2画面をつかうためのディスプレイアダプターキットもある。また、データ会議が含まれると1画面に相

手自分画面の他にデータ画面も表示可能。

→多言語対応し、音声入力確認が日本語を含む 11 の言語に対応する。

→カスタマイズできるユーザーインターフェイス、ホームスクリーンをユーザー毎定義可能

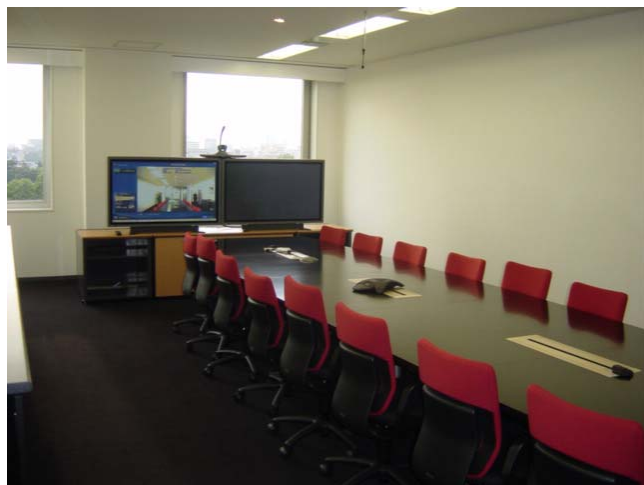
→データ会議が必要な場合は、VisualConcert VSX がオプションである。その他オプションとしては、拡張マイク・キットがあるが、VSX7000 は、専用のマイクケーブル1本で、拡張マイク 3 台直列か、VisualConcert VSX+拡張マイク 2 台といった直列接続が可能のため煩雑なケーブル配線がシンプルになる。

→発着信履歴の記録、閲覧、保存が可能のため、IPとISDNの利用比率、通信時間、ネットワークタイプ毎の通信時間の総計などを記録・分析できる。

→購入後の保守契約については、通常購入と一緒にってくるスタンダードと、別途費用がかかるプレミア、プレミア・プラスがあるが、交換品即日発送やオンサイトサポートが付く。

メーカー小売希望価格は、998,000 円。初年度の売上げ目標は、5,000 台を目指す。

同社は、9 月 16 日より本社を港区から千代田区へ移転 (CNA Report Japan Vol. 5 No.15 参照)し、あらたに、購入希望者向けのデモ環境が構築された 3 種類の大中小の会議室、またトレーニング用のセミナー式ルームなども設置し、導入希望者が実際の環境に近い形でビデオ会議のデモが体験できる。また、同社製の MCU も展示されている。



デモ用会議室 ポリコム日本法人内

■NTT ビズリンク、B フレッツを利用した IP テレビ会議サービス開始

NTT ビズリンク(東京都文京区、旧 NTT フェニックス通信網)は、NTT 東西が構築した地域 IP 網を使った IP テレビ会議サービスの提供を 10 月 16 日から開始する。今まで帯域保証がついた専用ネットワーク利用型のサービスと、帯域保証のない一般公衆インターネット利用型のサービスと2種類の IP テレビ会議サービスを提供してきた。

今回のサービスは、一般公衆のインターネットを通さずに、NTT 東西の地域 IP 網内で完結する接続サービスになるため、ベストエフォート型とはいえ、高品質なセキュリティが保たれたサービスが提供できる。

ユーザーは、H.323 対応の IP テレビ会議システムと、光アクセスサービスである BFLETS をアクセス回線として準備。そのアクセス回線から NTT ビズリンクが用意するテレビ会議専用ネットワークに接続することにより、多地点間および1対1の IP テレビ会議ができる。

サービスとしては、多地点、1対1以外その他に、基本サービスとして画面分割サービス、カスタマーコントロールサービス、そしてオプションサービスとしては、WEB 会議サービス、ISDN 相互接続サービス、ダイヤルアウトサービスなどがある。

初期工事費は、各拠点ごと60,000 円。月額利用費は、端末毎に 15,000 円、多地点利用費(ポート毎)が 20,000 円など。最低利用期間は、1年。

■コクヨ、電話会議等向け携帯電話用ハンズフリー装置を発売

コクヨ(大阪府大阪市)は、10 月 1 日、携帯電話用ハンズフリー装置「シェアボイス ミニ」を新発売した。手のひらに収まるサイズで重さは、98g。携帯電話のイヤホンジャックに接続してハンズフリーで電話をかけることができる。「シェアボイス ミニ」の集音範囲は半径 1m 以内であるが、同時に 4 人程度が通話できるため電話会議も行える。そして、「シェアボイス ミニ」を1台の携帯に 10 台まで直列に接続することができるため、40 人程度の電話会議も可能。

また、パソコン用のスピーカー、マイクとしても利用できる。IP 電話やパソコンによる語学学習、ウェブ会議などの利用を想定している。

希望小売価格は、15,000 円。販売目標は 1 億円を目指す。

■ナカヨ通信機、CEATEC で SIP 対応 IP(テレビ)電話、盗聴防止用 IP 電話機参考出展

幕張メッセで開催された CEATEC(10 月 7 日-10 月 11 日)で、ナカヨ通信機(東京都渋谷区)は、SIP 対応の IP(テレビ)電話を参考出展した。画像圧縮方式は、MPEG2 と MPEG4 に、画面サイズは、QCIF からフル D1(外部出力)まで対応している。また、転送速度は、384kbps から 15Mbps をサポートし、外部カメラ、外部モニターへの入出力が可能。外部カメラのパン、チルト、ズームの遠隔制御、IP 電話、IP テレビ電話の切り替えも可能。

同社では、また盗聴防止用 IP 電話機も参考出展した。IP 電話による音声通話を暗号化することにより盗聴を防ぐ目的のものであるが、今回開発した製品は、公開鍵方式の一つである RSA 暗号を利用した手順で、秘密鍵方式の一つである DES の暗号鍵を交換するという二重の暗号方式をとっている。

今後商用化に向けて、AES 暗号の採用によるセキュリティ強化、操作の簡素化などの改良を重ねる。

同社では、さらに SIP 対応の 4 チャンネル IP ゲートウエー装置「IP-DATAGATE-4GW」を発表した。同製品は、既存のビジネスホンや PBX に接続して IP 電話サービスを利用できるので、初期投資費用を抑えた導入が可能という。

■NEC、CEATEC でモバイル端末向け映像配信ソリューション展示

NEC(東京都港区)は、3G(第三世代携帯電話)向けの映像配信ソリューション「3GVirdnet」を CEATEC で展示。「3GVirdnet」は、映像コンテンツ配信、テレビ電話、映像監視、ライブ映像配信などの機能が可能で、3G 携帯やパソコン向けにリアルタイムに映像配信する。

また、テレビ電話機能については、同社独自のゲートウエー技術により SIP、H.323、3G 携帯間での通話が可能。

■ネットワンシステムズ、米 FVC 社へ出資、FVC 社ナスダック市場上場維持基準問題か

ClickToMeet などウェブ会議ソリューションを提供する米

FVC 社の日本代理店であるネットワンシステムズ(東京都品川区)は、米 FVC 社へ出資することとなった。出資額は、160 万 USD(約 1 億 7300 万円)、引受株式数は、1 株当たり 2.45USD(約 265 円)で 642,921 株。今回の出資は金銭による授受はなく、FVC 社より株式の発行を受ける代わりに、ネットワンシステムズが FVC 社から購入済みの製品、160 万 USD 額分を返却することに行う。この分については、繰延収益として貸借対照表上負債の部に計上されていた。

今回により、貸借対照表上の負債の削減と、それに合わせて株主資本の増額を行うことにより財務基盤の強化を図るが、同社がかかえるナスダック市場上場維持基準問題(CNA Report Japan Vol. 5 No.16 参照)に対応するためのものと思われる。日本のネットワンシステムズのウェブサイトには 10 月 12 日現在情報は掲載されていない。

■タンバーク社、新しい CTO 就任

ノルウェーのテレビ会議メーカーであるタンバーク社に新たに CTO が就任した。Louis Olsen 氏。同氏は、タンバーク社の技術戦略や今後の技術構想策定などを担当する。また、タンバーク社の“有機的”成長及び“無機的”成長戦略を策定実行するにあたってのアドバイザーとして、そして R & D における主幹として任務を果たすことを期待されている。

Louis Olsen 氏は、Sprint PCS、Alera Solutions など IP 関係やワイヤレス関連の実務経験を持つ。また、2002 年 4 月に承認された、IEEE802.16(70Mbps という高速通信を実現する無線データ通信の新しい規格)標準化グループでの副議長も務めた経験を持つ。

■米グローポイント社、新しい CEO 就任、ウェブキャスティングサービス開始

IP テレビ会議サービスを展開する米グローポイント社は、新たに David C. Trachtenberg 氏が同社 CEO に 10 月 15 日に就任予定。現在の CEO である Richard Reiss 氏は、同社の最大株主として会長職に退き 2004 年 5 月までの任期を全うする予定。

David C. Trachtenberg 氏は、Starband Communications 社、Prodigy Communications 社、MCI 社などでマネジメント、マーケティング、製品開発などで 20 年活躍してきた経

歴を持つ。

同社は、テレビ会議販売事業部を米ゴア・テクノロジー・グループに売却し、社名をグローポイントに変更したばかり。(CNA Report Japan Vol. 5 No.14 参照)

また、同社では、「Glowpoint Webcasting」と呼ばれるインターネットに接続された PC で閲覧できるウェブストリーミング・コンテンツ配信サービスを開始した。このサービスを提供することにより、質の高い、インパクトのあるテレビ会議が行えると同社に就任したばかりの CEO David C. Trachtenberg 氏はコメントしている。

■ラドビジョン社、同社MCUのバージョン 3.2 をリリース —H.264、H.239 対応等

MCU、ゲートキーパーなどを開発するイスラエルのラドビジョン社が、同社が提供する MCU(多地点接続装置)のバージョン 3.2 をリリースした。今回のバージョンアップによって、今年に ITU-T で承認され各テレビ会議メーカーなどで実装が始まった H.264 と、最近 ITU-T で承認された H.239 を業界初で実装した。

また、ポート能力を倍に上げたが、ポート当たりの単価は 1,354USD(約 14 万 8 千円)と価格を抑えた。全世界同時に発売。

■英 All New Video 社、3G/ISDN/IP テレビ会議サービス提供中

多地点接続サービスなどを提供する英 All New Video 社は、今年 7 月 30 日に、3G(第三代)携帯、ISDN、IP 間のゲートウエーサービス「All3Video」を開始した。当初はビジネス向けであるが、2003 年第四四半期(10 月-12 月)期には、コンシューマー向けのサービス展開も予定している。

FT500 社(Financial Times 紙企業ランキングでのトップ企業)の多くが同社多地点サービスを利用しているという。今までは、テレビ会議で多地点接続に参加できない場合は電話で参加していたが、この All3Video サービスによって、3G 携帯テレビ電話からでも IP、ISDN 混在のテレビ会議が行える。

また、リサーチ会社 Teleonomy 社によると、西ヨーロッパでは、2004 年の終わり頃までに、3G テレビ電話の加入者が 500 万を超えると予想しているため、ニーズは高いと同社で

見たのではないかとと思われる。

■セントラ社、システムス社とメキシコでの「Centra7」再販提携

ウェブ会議ソリューションを提供する米セントラ社は、メキシコのシステムス CBT 社と、セントラ社が提供するウェブ会議ソリューションのメキシコにおける「Centra7」の再販売について提携したと発表した。

提携により、英語、スペイン語でのテクニカルサポートの提供、インストールからコンサルティングまでのプロフェッショナルサービス、また、セントラの API を使った第三者によるアプリケーションとのシステムインテグレーションなども行う。

システムス CBT 社は、メキシコでのセントラの製品とセントラの ASP サービスの独占的販売代理店。システムス CBT 社によると、メキシコにおける e-learning 市場は急速に拡大しているという。すでにセントラ製品に対する引き合いは結構あるとのこと。一例が、国営の石油精製企業である PEMEX。

■アエスラ社、インプサット社とのテレビ会議再販提携、 同社テレビ会議も H.264 準拠へ

イタリアのテレビ会議メーカーアエスラ社は、アルゼンチンを始めとした中南米でブロードバンドサービスや音声、データ通信サービスを提供するインプサット社と、アエスラ社のテレビ会議端末の再販について提携した。

インプサット社は、この提携によりアエスラのテレビ会議システムを中南米各国へ販売する。

米 TMC.net ニュース(2003 年 10 月 14 日)によると、同社テレビ会議製品について、今年 ITU-T で承認された H.264 に準拠させたようだ。

■クリアワン社、テレビ会議製品製造中止へ

音声会議端末やテレビ会議端末の開発製造を行う米クリアワン社は、同社が製造するテレビ会議システム「V-There」の製造中止を各販売代理店等に通知した。製造販売は、2003 年 12 月 31 日で終了するが、製造販売終了後も、保証期間修理やテクニカルサポートなどのサービス提供は継続する。

今年の初め頃、収益の水増しなどによる粉飾決算が行わ

れたという株主訴訟が起こり、CEO と CFO が職務を解除されナスダック株取引一時停止処分など起こった経緯があったため、この影響もあるのかもしれない。

■ Windows ベーステレビ会議端末、ウイルス感染恐れ

ソニーが販売するテレビ会議システム、「PCS-6000」にウイルス感染の恐れがあるため、同製品ユーザーに対して対策を取るよう同社ホームページで注意喚起している。対処方法は、同社ホームページより、対策ソフトをダウンロードして行うようだ。詳細は、同社ホームページで逐次情報を提供する。

「PCS-6000」は、基本 OS 部分にマイクロソフト社の英語版の Windows2000 を採用しているため、インターネット環境に同製品が接続されていれば感染の恐れがあるということ。ただ、ユーザー側には OS が見えない専用端末仕様となっている。

同製品が IP ネットワークに接続された環境下で、ウイルスに感染するというケースが発生していると同社ホームページで注意している。

ポリコム日本法人も、ホームページにて Windows 2000 ベースの iPower シリーズは、W32.Blaster.Worm の感染の可能性があると同様な注意を出しており、修正パッチをダウンロードするように案内している。

■米フォーゼント、シンプリシティ・ソフトウェア社買収

テレビ会議ネットワーク管理関連のソリューションを提供する米フォーゼント社が、スケジューリングアプリケーションを提供する米シンプリシティ・ソフトウェア社を、350 万 USD (約 3 億 8400 万円) で買収したと発表。

今まで主にハイエンドクラスの企業を中心にソリューションの提供を行ってきたが、今回の買収で中小企業にも力を入れる。

米フォーゼント社は、JPEG 特許関係で、日本のデジタルカメラメーカーから特許料収入を得たりしている。日本ではビジネスを行っていないが、米テレビ会議メーカー VTEL 社から分離した会社。VTEL 社は、もともとナスダック上場企業であったが、この分離で VTEL 社自体はテレビ会議端末事業へ特化し非上場企業となり、フォーゼントはテレビ会議運営ソリューション関連へ特化し、ナスダック上場企業と

なった。

展示会レポート

DVComm China 2003

2003 年 9 月 25 日 - 27 日 北京中国国際展覽センター



DVComm China 会場(手前から、クレストロン、ソニー、VTEL ブース)

前回の CAN リポートで報告したとおり、9 月 22 日、23 日に台北の Computex に参加し、その後 9 月 25 日から 27 日に北京で開催された DVComm China に参加した。

北京へは、24 日朝台北を出国し成田に戻り、一時帰国し 4 時間ほど待って北京行きの飛行機へ乗り、北京のホテルには午後 11 時頃到着。ホテルは、会場である中国国際展覽中心からタクシーで 10 分ほどのところ(料金 13 元)に泊まり、会場へはタクシーで通った。

北京の道路はすごい。渋滞などもすごい、もたもた運転していると後ろからクラクションをビービー鳴らされるし、ほとんどお互いにクラクションの鳴らしあい、割り込みはほとんどあるし、ぶつかりそうな目に何回もあった、車線変更でも方向指示器は出さず、日本人の感覚からみるとめちゃくちゃな運転が横行している北京。また、気を付けないとタクシーを降りるときにおつりをくれないそぶりをする一部悪質なタクシーもあつたり、メーターや、ドライバー資格証書をあまりみえないところに置いたりするドライバーがいたので北京に行く際には注意された方がいいと思う。英語、日本語はほとんど通じないと思った方がいい。

DVComm China 出展社数約 40 社、世界最大のテレビ会議展示会

今回北京に訪問した理由は、中国で、アジアで、世界でといっても過言ではない世界最大のテレビ会議展示会に参加するためだった。当初は、台北の Computex に参加するだけで帰国しようと思ったが、DVComm China のホームページをみてほぼ直感的にこれは見ておかなければならないと思ひ、出発数日前に旅程の変更をして台北、北京の 8 日間の視察になった。

DVComm China は、展示出展社数で約 40 社弱ほど出展していたが、今 20 年強の歴史を持つアメリカの Telecon が無くなった今、これだけの社数を集めたテレビ会議に特化した専門展示会は、今のところ、この DVComm China しかない。

アメリカには、コンファレンス関連のリサーチ会社であるウエインハウス社が今年開催する Conferencing4Business があるが 28 社で、9 月 23 日、24 日に開催された Conferencing4Business 北京が 27 社、来月英ロックメディア社がイギリス ロンドンで開催する WAVE の展示会・セミナーでは、10 月 15 日現在、23 社が出展する予定といったところから、今のところは世界最大の展示会といっても間違いはない。

DVComm China が開催されるようになったも、ポリコムやタンバーク、ソニーなどの強豪の中、コンファレンス市場へ中国のメーカーが、MCU やゲートウエーなどインフラストラクチャーコンポーネント関連製品を多数開発製造し、参入しているという背景があるからであると思われる。

DVComm China は、40 社ほどが出展していたが、ポリコム、タンバーク、ソニー、VTEL、WINNOV、クレストロン、ACT テレコンファレンシング、FVC、リッジウエー、エゼニア！の販社なども出展していたが、その他は、ほとんどが中国メーカーであった。

ただ、中国メーカーの中で、Huawei や TZE (CNA Report Japan Vol. 5 No.1 参照)、Radford などは出展していなかった。

来場者は、ある中国人に聞くと、「一般のユーザーが来ているというよりは、業界関係の人が多いのでは。」と言っていた。

各社ブースでは、英語がほんの少ししかできない人が多くて、英語と漢字を駆使しての筆談などで何とかコミュニケーションができるという感じ(それでも 100%ではない)で、次回来る機会がある場合は、通訳士の必要性を感じた。ただ、この馬の骨ともわからない変な質問ばかりしてくるリーベン(日本人)に対して、皆さん結構一生懸命、丁寧に説明してくれたのは非常に印象的だった。

どこの出展企業も IP 化を考えた場合、テレビ会議、遠隔監視のアプリケーションは有望なアプリケーションになっているようだった。MCU やテレビ会議端末などのメーカーは中国でもあっても、逆に音声会議に特化したメーカーは、「聞いたことがない。」という人が多かった感じ。寧ろこういった音声会議分野については欧米企業、たとえば、クレストロンや、ポリコム、また、販社を中国に持つコンピューネティクスなどぐらいで、数はテレビ会議メーカーに比べ少ないようだ。

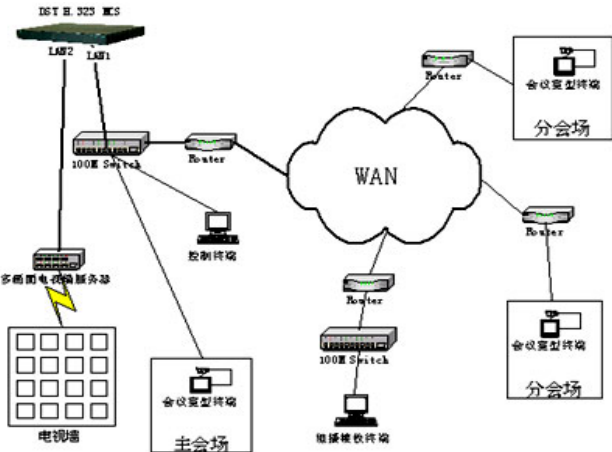
北京鼎視通軟件技術有限公司(Beijing DST)

北京鼎視通軟件技術有限公司(Beijing DST Software Technology)は、2001 年 2 月に設立されたブロードバンドマルチメディア通信関連のソリューションを提供する会社で、ISO9001:2000 を取得。ブースでは、同社の IP 向けテレビ会議 MCU(多地点接続装置)DST H.323MCS(写真下)、小



型 MCU「Asteroid」、MCU の管理ソフトである DST Manager Assitant、PC タイプの IP テレビ会議「DST mPoint」、メディアプレーヤー「DST Player」、DST H.323MCS と連動して、マルチ画面に映像表示を可能とする DST TVWall Server な

どを展示していた。その他の製品としては、ゲートウェー、ゲートキーパーなどさまざまな会議用製品を開発している。MCU はデータ会議の国際標準である T.120 に対応している。



TVWall server システム図



DST mPoint(写真は編集長橋本)

同社の DST H.323MCS の導入先リストをもらったが約 85 の政府機関、警察、病院、中国軍、教育、企業の名前がリストされていて、主に政府機関が多かった。一般企業はまだ少ないようだ。しかし、たとえば、ポリコム端末 130 台と、DST H.323MCS を 13 台一括導入した山西省政府、タンバーク端末 35 台と導入した海南省最高人民法院、あと西安市国税局、福建省気象庁、またモンゴル通信などポリコム、タンバーク、VCON、VTEL などのテレビ会議端末と組み合わせ納入している。

また、同社によると、中国の MCU 市場では、同社が 40% の市場を持ち、ラドビジョンが 35%、ポリコムが 15%、その他という状況で、同社が中国の MCU 市場をリードしているようだ。

ポリコム+中国のリセラー中国普天

ポリコムは、同社の音声会議 Soundstation から、Viewstation、MGC-50(多地点接続装置)、iPower などの展示デモを行っていた。お話をしたのは、中国でのポリコムのメジャーなリセラーである中国普天(China Putian)のシニア・インダストリーマネージャー超初秋氏と話をした。

ポリコムの製品概要については、ご存じの方も多いと推察するのでここでは割愛するが(このレポートは中国メーカー等をレポートするのが目的なので)、中国普天は、



ポリコムブース

MGC-50 などと連携して、マルチ画面に複数拠点の映像を表示する装置「PT-TVWS」を開発している。製品自体は展示されていなかったが、ポリコムの製品と連携したソリューションとして顧客企業等へ提案しているようだ。ただ、前述の北京鼎視通軟件技術(DST Software)の説明員と同じことを言っていたが、超初秋氏も「中国でのテレビ会議導入は、政府関係が主のこと。企業ユーザーはこれから。」中国では、専用線など高価なサービス費用を払えるのは政府関連だけで、テレビ会議は、一般企業は、ADSL などを導入し始めたが、一般に高嶺の花と見られているので一部の外資系や大企業に限られているようだ。

天地阳光通信科技(北京)有限公司(Amplesky)

天地阳光通信科技は、アメリカの企業で昨年中国市場に参入してきた企業で、H.323 ベースの MCU、AMPLESKY VM マルチポイント・コントロール・ユニット(VM2000、VM3000、VM4000)、CLAIREYE VT デスクトップ PC ビデオ会議クライアントソフトウェア、またはゲートキーパーなども開発製造している。



手前から VM2000、VM3000、VM4000

VM2000 は、8 ポート、VM3000 は、4-36 ポート対応、VM4000 は、128 ポートまで対応し、小規模会議から大規模会議までさまざまな会議ニーズに対応するという。VM8000 は、ゲートキーパー機能を内蔵する。画像切り替えは、シングルモードに対応しているが、現在のところ多画面分割には対応していないが現在開発中とのこと。(同社ジェイソン・ホワイト氏、中国支社長補佐、アメリカ人。逐次英語ができない中国人スタッフと私が会話する際に、英語と中国語の通訳を行ってくれた。)

天地阳光通信科技のブースでは、同社の MCU とさまざまなテレビ会議端末が相互接続の検証が取れているというのを示すために、ポリコム、タンバーク、ソニー、アエスラなどの製品も一緒に展示していた。ソニーの PCS-1 が展示されていたが、その際に MPEG4 対応の話がでて、天地阳光通信科技の R&D 部長 Yipeng Nie 氏によると、「弊社の MCU は、MPEG4 には対応している。」そうだ。

タンバーク



タンバークブース

タンバークのブースでは、タンバーク製品 TANDBERG880 など複数台使って多地点接続のデモを行っていた。タンバークでは、パンフレットに書かれている導入先リストによると、大学など 24 教育関係期間の導入が書かれていた。中国政府機関では、水利局、軍関係などで導入。また、通信運輸関係も 20 弱、その他企業では、銀行、ホテル、保険、航空、米コンピューター企業など 20 企業も書かれていた。



左:MARS-8000)

北京华纬讯电信技术有限公司 (SinoWave Communications)

北京华纬讯电信技術は、アメリカに留学した社長が創立した会社。テレビ会議に関連の MCU やゲートキーパー、端末などを開発している。(写真



同社では、「MARS-8000シリーズ」、「MARS-6000シリーズ」、また

PC 会議系の「快視通」などを開発している。「MARS-8000 系統(シリーズ)」は、MPEG4 に準拠したテレビ会議システムで、「MARS-8000MCU/GK(多地点接続機能/ゲートキーパー機能)(写真上)」、「MARS-8000BS(テレビ会議端末: 前頁写真)」、「MARS-8000USB(PC タイプのテレビ会議)」の 3 製品がある。「MARS-8000」は、学校などに導入されているそうだ。

また、「MARS-6000 シリーズ」は、MPEG2 のテレビ会議システムで、現在公安などが導入して高品質の映像での会議を行っているそうだ。「MARS-6000MCU/GK(写真上)」、「MARS-6000BS(テレビ会議端末)」がこのシリーズに入る。

また、「快視通」は、MPEG4 準拠の PC テレビ会議。



快視通—PC ベース MPEG4 テレビ会議

同社マーケティングマネージャー 倪 亮氏から筆談も交えて説明していただいた。

武大方略数码科技有限公司 (FirstLink)

1999 年 12 月に会社を設立した武大方略数码科技は、IP テレビ電話から PC タイプのテレビ会議、多地点接続装置、そしてセットトップテレビ会議と幅広く製品を開発製造販売している。また、H.323 テレビ会議を始め、H.320 の ISDN テレビ会議システム、H.324 のアナログ回線向けテレビ会議システムや関連のソフトウェアモジュールも開発している。

次ページ写真のテレビ電話「FL-VIP2000」は、H.323 に準拠し、5 インチ TFT カラーLCD ディスプレーを搭載。映像コーデックは、H.261 と H.263 に対応。音声コーデックは、G.711、G.723.1、G.728。台湾 Leadtek 社の「iSee」と見た目に同型。米 Viseon 社も同型筐体の IP テレビ電話を出している。

PC テレビ会議システムについては、「FL-RockView310」、「FL-RockView320」、「FL-RockView330」、「FL-RockView340」などがあり、H.323 準拠の映像コーデックは、H.261 と H.263 に対応しているが、MPEG4 に対応したものであれば、「FL-RockView310M」、「FL-RockView320M」がある。

セットトップテレビ会議システムについては、「FL-RockStation 5100M」、「FL-RockStation 5600M」、「FL-RockStation 5800M」があるが、H.323 に準拠しているとはいえ、映像コーデックは、MPEG4 ベースになっている。音声コーデックは、G.711、G.723.1、G.728。遠隔カメラ操作(H.281)、コンファレンスコントロール(H.243)をサポート。ハイエンドタイプのテレビ会議システム。

また、MPEG4 以外に H.261 と H.263 を同時にサポートした、「FL-RockStation 5100D」、「FL-RockStation 5600D」、「FL-RockStation 5800D」などもある。

MCU(多地点接続装置)については、H.323 準拠で、映像コーデックは、H.261、H.263、MPEG4 をサポートした、「FL-LinkMaster8000」がある。T.120 準拠。コンファレンスコントロール機能、マルチコンファレンス機能。4 ポート MCU から 32 ポート MCU まで、2 シリーズ、16 機種の MCU を揃えている。同社販売担当の項目部氏によると、「32 端末接続時 768kbps 接続が可能。」筐体の見た目は 1U タイプのボックスサイズ。

中国政府、大学、中国軍などに導入実績があるようだ。

浙江南望图像信息产业有限公司 (Nanwang Multimedia Technology)

浙江南望图像信息产业は、テレビ会議システムから、テレビ電話、遠隔監視、ビデオリコーディング、ネットブリッジ、などマルチメディア映像、通信関連製品を開発する会社。イスラエルの VCON やオランダのフィリップ社などと協力関係が

あるそうだ。浙江省認定の 10 強に入る情報産業企業の一つと言われ、北京市公安局や杭州市電力局なども同社のシステムを利用しているそうだ。

同社では、NH600 テレビ会議シリーズとして、「大型会議端末」、「小型会議端末」、「移動型



デスクトップ型会議端末

端末 A」、「移動型会議端末 B」、「デスクトップ型会議端末」、「IPテレビ電話NVP100」がある。「NVP100」以外は、映像コーデックは、MPEG2、MPEG4、H.263 に対応しているようだ。

ちなみに、同社の華北区担当セールスマネージャー占文金氏によると、「NVP100」の価格は、800USD 程(約 87,700 円)。また、MPEG2 コーデック製品は、4000USD(約 43 万 8 千円)

また、監視系ソリューションも開発している。

北京中讯群通科技股份有限公司(CTC)

北京中讯群通科技では、エンタープライズ企業向け IP 向け多地点接続装置 (MCS3000) と通信事業者向け IP 多地点接続装置 (MCS6000)、また、デスクトップ PC タイプテレビ会議「EasyCall 1000」を製造販売している。ISO9000 を取得したそうだ。

「MCS3000」は、H.323(映像コーデック:H.261、H.263、音声コーデック:G.711、G.722、G.723.1、G.728、G.729)と T.120(データ会議)をサポートしており、128kbps では、64 端末、3Mbps では、15 端末までサポートしている。画面表示については、シングルモードだけでなく、4 多画面分割なども対応している。

8 ポートと 16 ポート対応簡素化した専門版と、ポート容量を増大させた増強版もある。

「MCS6000」は、単体 MCU で最大 200 端末接続までサポートする。

「EasyCall 1000」は、PC 用テレビ会議システム。H.323 に準拠し、映像コーデックは、H.261、音声コーデックは、G.711 をサポート。

同社の多地点接続装置と、VCON、タンバークなどのテレビ会議システムを組み合わせた導入実績があるそうだ。

北京威速科技有限公司(V2 Technology)

北京威速科技は、1999 年に設立された、インターネットリアルタイム通信向けのソフトウェアを開発する会社。同社では、ウェブテレビ会議システム「V2 Conference」、ストリーミングサーバー「V2 Media System」、また、インスタントメッセージングの「V2 Communicator」、ボイス E メール「V2 VoiceMail」などを開発している。



V2 Conference 画面

北京泰利恒通科技发展有限公司

北京泰利恒通科技发展有限公司は、VTEL のリセラーでもあり、また、MPEG2、H.323 対応テレビ会議システム FOCUS シリーズを開発した迪威视讯技术有限公司のリセラーでもある。テレビ会議だけでなく、電話会議用多地点接続装置等も販売している。

迪威视讯技术有限公司は、MPEG2 のテレビ会議システム「FOCUS3000」と「FOCUS8000」、また、MPEG1 と MPEG2

も同時にサポートした H.323 の多地点接続装置「FOCUS 6000」(8ポートから32ポートまで対応)、テレビ会議端末(アタッチケースタイプ)「FOCUS2000/2100」などを開発。映像コーデックは、H.261 と H.263 をサポート。

電話会議用多地点接続装置としては、「Multicall2000」、IP 電話用「Multicall2000IP」などがある。

上海汉唐科技有限公司(OSOONMEDIA)

上海汉唐科技では、テレビ会議、テレビ電話、遠隔教育向け、からビデオレコーダー、MPEG4 監視サーバーなど映像系の製品を販売している。テレビ会議製品では、MPEG4 対応、音声コーデックは、GSM6.10(欧米などで携帯電話の標準符号化方式として使われているプロトコル)、また暗号化(DES128)にも対応している。

セットトップタイプのテレビ電話もあり、H.323 と SIP に対応。音声コーデックは、G.711 と G.723 をサポート。また、通常のテレビ電話であれば、アナログ回線対応(H.324)と IP 回線(H.323)に対応した製品も扱っている。これらの製品は、台湾の Leadtek 社の「iSee」と同じ筐体。

ソニー

ソニーは、同社の新テレビ会議システム「PCS-1」を展示していた。ポリコム、タンバークと同様製品概要(PCS-1のニュース記事:CNA Report Japan Vol.5 Nov.9 参照)についてはここでは割愛するが、日本国内では「PCS-1」であるが、外国では「PCS-1P」と最後に「P」が付くようだ。ソニーブースでは、「PCS-1P」と、オプションのドキュメントカメラ、ホワイトボードレコーダー「mimio Xi」などが展示されていた。

「PCS-1」は、リリース以来需要が高く生産が間に合わない(CNA Report Japan Vol.5 Nov.12 参照)そうだ。2003年9月6日の日本経済新聞朝刊に、同社のテレビ会議の増産のニュースが報じられている。

VTEL

VTEL はアメリカの主要テレビ会議メーカーで、数年前まで日本事務所があったが、最近はなくなり、日本ではあまり

聞かれないメーカーになりつつあるが、中国では結構注目されているメーカー。最近では、中国国家林業省に、38 台の導入を行っている。(CNA Report Japan Vol.5 Nov.15 参照)展示会のブースも会場入口近くに大きく構えていた。

VTEL は同社の Galaxy シリーズの、「Model725」や、カメラ部が2台付いた Model5500/2500 などが展示されていた。また、VTEL は、多地点接続装置である、「Smartlink 1000&2000 コンファレンス・サーバー」や、テレビ会議ネットワーク管理系の「Smartvideonet マネージャー2.0」などもある。



VTEL ブース

まとめ

中国のテレビ会議などのコンファレンス市場は、日本市場を近いうちに追い越すという見方が一般的。中国では一般的に音声会議よりもテレビ会議の方が関心が高いと聞いたが、一部の中国人によると、政府や大企業などはテレビ会議に手が届くが、一般の企業からすると高嶺の花。そうした場合、音声会議を選択する企業も少なくないという。

いずれにしても各メーカーの業績発表を見ても、アジアの事業が急速に拡大しているところが多いが、中国がアジア全体を引っ張っているという感じが強いと思う。展示会に入っていくと、まず思ったのは、「こんなにあるのか!」という単純な驚きであった。

今回実際に中国を訪れ、この目と耳と体と皮膚とで体感してきたが、沢山の中国メーカーが市場に参入してきているということ、そこで働く人達の熱意を見ると、中国がアジア全体

を引っ張っているというのはあなたが間違っているという実感がした。

確かにまだまだ政府機関や文教、病院などが多く、一般企業はこれからという感じかもしれないが、今後中国のGDPが拡大し、中国企業がますます力を付けてくれば、世界一最大のアメリカ市場も凌駕するくらいに市場が拡大していく可能性は否定出来ないと思う。

中国のユーザーは、機器選択上、外国企業のものから、中国地元の企業のものまでさまざまな製品が選択できる。関税率が35%程度(2002年12月に現地の人に聞いた情報に基づく)と高いとはいえ、ビジネスのやり方が難しいとはいえ、市場のポテンシャルからビジネスにとって非常に魅力のある市場である。

さまざまな製品が投入されている市場であるので、競争は激しいが、ユーザーの目も肥えるし、製品も洗練されてくることを考えると、近い将来中国からメジャーなメーカーがでてくるのは間違いないのではないかなと思う。

(DVComm China リポート終わり)

イベント情報

国内

■ Visual Nexus Video & Voice Over IP セミナー

日時: 2003年10月29日(水) 13:30-16:00
(13:00より受付開始)

場所 & 主催: トーメンサイバービジネス株式会社

パートナー: 日商エレクトロニクス株式会社

問合せ: トーメンサイバービジネス株式会社

TEL: 03-5715-0820 FAX: 03-5715-0830

URL: <http://www.tomen-g.co.jp/>

* H.323 IPビデオ会議とストリーミングの製品・事例紹介

■ 「最先端 IP 映像通信会議トータルソリューション セミナー」

日時: 2003年11月7日(金) 13:30-17:00
(13:00より受付開始)

場所: NTT-MEプレゼンテーションルーム

主催: (株)NTT-MEグローバルソリューション本部

TEL: 03-5956-9054 FAX: 03-5956-9058

URL: <http://nttiivs.ntt-me.co.jp>

* FOMA, H.323, SIP を統合する最新のトータル映像ソリューションの紹介

海外

■ WAVE

The Web, Audio, Video Collaboration Event

日時: 2003年11月12日(水) - 13日(木)

会場: イギリス ロンドン Olympia Conference Centre

主催: Rock Media

* 初のエンドユーザー向け展示会(今年初めて開催)

詳細: <http://www.wave-conferencing.com/>

編集後記

8日間で、立て続けに台北と北京を訪問して体力的にも疲れましたが、さまざまな発見があり非常におもしろかったです。台湾と中国の動きについて、少し垣間見ることができたような感じがしています。今後も可能な限り台湾や中国をワッチしていこうと思っています。

次号は、10月31日頃を予定していますが、そろそろ各社の第三四半期(7月-9月、日本の第二四半期に相当)の業績発表が出てきますので(出てきたところもあります)、レポートしていきたいと思えます。

CNA Report

Conferencing News & Analysis

Independent & Unbiased Perspective
Since December, 1999
By Keisuke Hashimoto

CNA Report Japan(シーエヌイー・リポート・ジャパン)

編集長 橋本 啓介 k@cna.jp

(CNA Report Vol 5. No.17 2003年10月15日号
終わり)次回は、2003年10月31日を予定
しております。ご購入ありがとうございました。